



2025「鳴門海峡の渦潮」国際シンポジウムの開催

資料 2-3

大阪・関西万博の開催により世界から関西に注目が集まるこの機会に、国内外の関係者参加により渦潮の魅力の発信と海の適正利用について考えるシンポジウムを開催した。

1 日時 令和7年9月1日(月) 13:00～16:40

2 場所 ホテルニューアワジ プラザ淡路島 (兵庫県南あわじ市阿万吹上1433-2)

3 テーマ 渦潮から考える海と暮らしの未来

4 内容

● **両会長挨拶** (兵庫・徳島県知事)

● これまでの取組報告

・鳴門海峡の渦潮の普遍的価値

柴田昌三 学術調査委員長 (自然分野)

・鳴門海峡の渦潮世界遺産登録に向けた今後の取組の方向性

金田章裕 学術調査委員長 (文化分野)

● 海外事例紹介 (海外類似資産連携調査学術機関からの発表)

サルトストラウメン海峡の渦潮と海洋保護区域 ヴィグディス・トゥベルバーグ氏
(Prof. Vigdis Tverberg)

(ノルウェー ノード大学 教授)

バイサイエンス・水産養殖学部 生態学学科長)

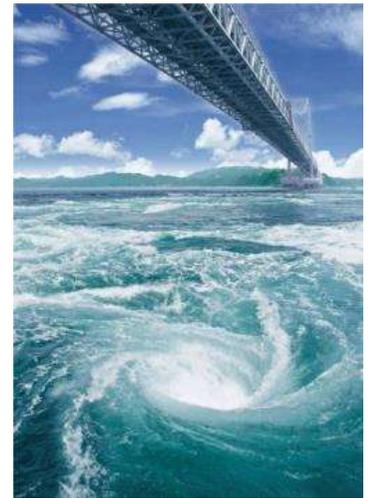


コリーヴレックン湾の渦潮
～ 神話と現況 ～

アンドリュー・デール氏

(Dr. Andrew Dale)

(スコットランドスコットランド海洋科学協会 主席研究員)



● 基調講演

顕著な普遍的価値を有する自然遺産を守るための手段としての世界遺産条約

ギイ・デボネ氏
(Mr. Guy Debonnet, M.Eng.)
(元ユネスコ世界遺産センター自然遺産ユニット長)



地質遺産の保全における地域社会の参加

シャフィーア・レマン氏
(Prof. Emeritus Dr Mohd Shafeea bin Lemam)
(マレーシア国立大学名誉教授、IUCN世界保護地域委員会委員(地質遺産専門家グループ運営委員))



世界遺産の文化的景観：自然と文化の懸け橋

モニカ・ルエンゴ氏
(Dr. Mónica Luengo)
(元イコモス文化的景観国際委員会委員長)



● パネルディスカッション

世界遺産と豊かな海について、海外招聘者、地域住民と共に意見交換

コーディネーター 吉田正人氏 (筑波大学名誉教授・世界遺産学)

住民活動団体 雨堤 徹氏 (うず潮を世界遺産する淡路島民の会 副会長)

● 鳴門の海を守り育てるメッセージ

兵庫県立淡路三原高校 2年生 ボランティア同好会 堀川太逸氏、内橋聖氏

徳島県立鳴門渦潮高校 2年生 インターアクト部 魚見遥斗氏、蔭上楓華氏

5 参加者 190名

6 意見交換会及び現地視察

シンポジウム後に意見交換会、シンポジウム当日午前中と翌日に鳴門海峡周辺の現地視察を実施。



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ

7 シンポジウム、意見交換会での主な意見



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ

【ヴィグディス・トゥベルバーグ氏】（ノルウェー ノード大学 教授 バイオインテグレーション・水産養殖学部 生態学学科長）



- ① 地域社会住民の参画が非常に重要であり、我々の所ではダイビング会社が積極的に行っており、何が重要かということを経験的に彼らに聞いたところ、シンプルにこの場所を守りたいと言う。観光客たちに来たいと思ってもらえるようにするためには、綺麗にしなければいけないという話をしていた。そういった認識、意識をもっと広げ、関心を高めていくことが必要だと思う。
- ② 環境団体と協力して様々な活動をしておりエコロジーを研究しているメンバーは、海洋環境に懸念を持っている。釣りを禁止すべきとの動きにも繋がっている。オーバーツーリズムは、生物の多様性、そこに生きている動植物に対してやはりマイナスの影響があるので、あまり急激な人数の増加というよりは少しずつ制限して行うことが重要だと思う。

【アンドリュー・デール氏】（スコットランドスコットランド海洋科学協会 主席研究員）



- ① コミュニティの参画については、学校の取り組みも含めて素晴らしいと思った。我々も科学技術を通じて学校と様々な形で海洋の環境をいかに守っていくか、その重要性を様々なプログラムを通してやろうとしている。子どもたちにとって、渦潮というのはとてもわくわくするような存在でもあるので、もっと渦潮をトピックにして、子どもたちをしっかりと巻き込んでいくことができたらと思って活動している。
- ② 科学的になぜ渦潮ができるのか、本当に知られていないことが多いことに、科学者として驚かされている。
- ③ うずしお科学館の水理模型に大変感銘を受けた。船で渦潮を見られる環境を整えている所にも非常に感銘を受けた。

【モニカ・ルエンゴ氏】（元イコモス文化的景観国際委員会委員長）



- ① 昨日、環境シンポジウムに参加し、若い世代、高校生による本当に信じられない、とても素晴らしい経験をした。
- ② 世界遺産のプロセスは非常に長い道のりになり、かなり長期的に考えなければならない。富士山でさえ当初、基準viiで登録を目指したが、途中でアプローチを変更したということがあった。このプロセスは一步一步で考えていただければと思う。その過程で例えばジオパークがコミュニティにとっていいのか、さらにリサーチを進めていただければ。
- ③ 海外とのシリアル申請も考えられているので、こういったことも含めながら一步一步で進んでいくことが重要である。
- ④ 橋があれば、基準viiで自然ということになると非常に難しいかと思う。
- ⑤ 文化的な側面では、まだまだやるべきことは多くあるのではないか。



【ギィ・デボネ氏】(元ユネスコ世界遺産センター自然遺産ユニット長)

- ① コミュニティの参画は、今は世界遺産においては無くてはならない存在になってきている。コミュニティが保全にしっかりと参画していくこと、そしてその保全の重要性自体もさらに高まっている。
- ② 次のステップとして、まずは暫定リストに載るとのこと。これがなければ次に進むことができない。
- ③ これまで沢山の調査が既にされており、その中で非常に類い稀な独自性も多く言及されており、ユニークさは一つ重要なことであるが、世界的に顕著な価値をどこまでアピールすることができるか。
- ④ ジオパークの可能性も非常に良い。世界遺産より容易なプロセスだと思う。コミュニティの教育などが非常に重要となるが、既にこの地域ではその強みがあるのでうまく活用して、まずジオパークの近道から行くということも一つかと思う。
- ⑤ 基準viiと言うと自然美になるので、ビジュアルな見た目の外観上の完全性が求められる。
- ⑥ 評価基準viiiで申請をされる方が、受理されやすい可能性があるかと思う。基準viiだけで受理されるということはほとんどない。

【シャフィーア・レマン氏】(マレーシア国立大学名誉教授、IUCN世界保護地域委員会委員(地質遺産専門家グループ運営委員))

- ① 世界遺産の多くが、ジオパークとの合同になってきている。ジオパークから学ぶこともある。現実問題として、仕事をするには対価が必要で、保全まで考えるとWin-Winの関係が重要である。
- ② 評価基準viiはかなり難しく、このOUV(顕著な普遍的価値)を景観が美しいということだけで条件を満たすというのは非常に難しい。美しいというのはかなり主観的な評価になる。
- ③ 基準viiiで見ても他の同じような場所との比較が必要で、世界遺産をめざすのではあれば、まだ道のりは長いと思う。
- ④ ジオパークとして見たら、コミュニティの参画や必要条件に既にかなりのところが満たされていると思う。ジオパークの場合は地質、そしてコミュニティの参画、この二つの要素が重要になる。既にコミュニティの参画についてはかなりクリアされていると思う。
- ⑤ 可能性があると思うのは、渦潮の形成の進化について、他の渦潮と合わせた形で申請をするということ。そのシリーズで、或いは一連の渦潮として申請する。この地域でも様々な渦潮があるかと思うが、それをまとめた形で段階的に整理しては。
- ⑥ 評価基準viiiであれば、海底地形も世界遺産の対象に含めることができると思う。



会場の模様



協議会会長兼両県知事挨拶



取組報告 柴田委員長



取組報告 金田委員長



海外事例紹介 ヴィグディス・トゥベルバーグ氏



海外事例紹介 アンドリュー・デール氏



基調講演 ギイ・デボネ氏



基調講演 シャフィーア・レマン氏



基調講演 モニカ・ルエンゴ氏



パネルディスカッション



コーディネーター 吉田正人氏



雨堤 徹氏



鳴門の海を守り育てるメッセージ宣言



登壇者 記念撮影



鳴門海峡の渦潮を世界遺産へ



意見交換会



現地視察 道の駅うずしお



うずしお科学館



福永家住宅



名勝「鳴門」 鳴門公園



大鳴門橋歩道橋 渦の道



うずしおクルーズ